

久々にリサイタルを開かせていただくことになりました。  
今回は文化庁芸術祭参加として、新作「望空無我」と「雨」の二番を踊らせていただきます。



「望空無我」は、子供の命をテーマに、実に忌まわしい事件の多い昨今、大人たちの暖かい愛情を待っているような、清らかに澄んだ瞳の童子を演じたいと思っております。この無我童子の人形に魅力と申しましょうか、心を浄化させてくれる人間愛を諭されているような想いを抱いております。藤舎呂船師にお願いして雛子の曲・器楽曲として作調していただきました。また幸いなことに梅若六郎家に伝わる「童子」の面をお借りすることが出来ました。童子の声が大人たちに、そして現代の社会に、聞こえてくるような作品になればと願っております。

■演奏 ■小鼓・藤舎呂船 ■脇鼓・望月太三郎 ■大鼓・望月左武郎 ■太鼓・藤舎呂悦 ■笙・野津輝男 ■龍笛、排簫・笹本武志 ■打楽器・多田恵子 ■

「雨」は、平成三年のリサイタルに今藤政太郎師のお勧めで初演して以来、生涯挑み続けたい作品と思っております。平成九年のリサイタルでの再演、またこの題材の舞台となっております山形で、国民文化祭の際に上演いたしました。更に演出を変えての一人舞台を吉祥寺シアター公演、幸運なことにNHKの放送と、その都度新たな気持で上演して参りましたが、原作・脚本・作曲の凄さ、作品の深さ・大きさに、毎回感動しております。今回は独舞にて主人公の男「徳」・紅花問屋の女房「おたか」、江戸の橋の下で暮らす夜鷹の「お花」、ほか村の人々まで全てを演じる演出で挑んでみたいと思っております。

お時間ございましたら是非ご覧いただきたく存じておりますが、会場の規約にて完全着席の予約制とさせていただきます。前以ってのお申込の程、お願い申し上げます。

藤間仁章

